



▲子どもの笑顔あふれる古河市に

やわらかい感触を確かめたくて、大福のようなほっぺを指でそつと押ししてみた。するとおちよぼ口が可愛くひらいてニッコリ。

あどけない顔。たまらず「いくつなの」と甘い声。小さな指が2本立ち、黒い瞳がじつと私を見つめている。

いつの間にか「いい子だねえ」「かわいいねえ」を連発していた。

グラランドオープン(本年6月前)の「駅前ヤンチャ森」は、空きスペースにカーペットを敷いただけの簡易なつくり。絵本や遊具がほとんどない。それにもかかわらずプレオープンの約1年間、利用者が減ることはなかった。

「アパートだとイライラするので」「み

んなと遊ぶせいか、泣きません」「ママ友ができました」「ここに来るのが楽しみです」などと好評を博している。

先の国会で「保育園落ちた」の書き込みが話題になった。これに厚生労働省が「隠れ待機児童を加えると4万9000人は超える」と発表したが、民間シンクタンクの社会保障経済研究所が「本当の待機児童数は171万人」との試算をほじいてみせた。

子どもを預けたい気持ちがありながらも、「どうせ保育所に空きがない」と、

「駅前ヤンチャ森」で遊ぼう

申し込まない人を含めた数字だとし、一億総活躍の観点に立てば、この人数こそ潜在的待機児童だと切り捨てたのだ。

いま全国で3歳児以下の入所希望が急増中だ。そのために古河市は、乳幼児を預かる小規模保育所(19人以下)の整備を急いでいる。昨年、民間の小規模保育園2つが開設。今年10月には、公立の小規模保育所が開設予定。

駅前ヤンチャ森は、かつて閉店したパチンコ店を旧古河市が買い取り、(株)雪華

が事務所にしていた「まちなか再生市民ひろば」にある。

財政難の古河市が(株)雪華に、いつまでも財政援助をしたり特別優遇するのは、市民の理解が得られないだろう。(株)雪華への支援が「地域社会の活力の再生」という、まちおこしの本質的な課題の解決に至っていないからだ。

それゆえに私は「まちなか再生市民ひろば」を市に返していただき、市民が気軽に利用できる「子育て、孫育て広場」に改修したのだ。

今日も子どもたちのしゃぐ声が、駅前ヤンチャ森に響いている。家族一緒に楽しく飲食する光景は、まるでピクニックのようだ。

育児をちよっぴり息抜きしたい「一時預かり」や、電車やバスでの早朝出勤を応援する「保育児・送迎ステーション」も、まもなく駅前ヤンチャ森ではじまる。子どもの成長は早い。行政がいつまで「検討」している場合ではない。全国がうらやむ子育て支援の古河市にしよう!



古河市長
菅谷 憲一郎